

さわやかちば県民プラザ主催事業等実施報告

実施日	令和6年6月15日(土)		
事業名	ちばアカデミア講座1		
趣 旨	県内外の国立研究機関・大学・文化施設・各種団体等と連携し、県民に最先端科学技術・経済・文化・教育・環境・健康・安全・食生活等の情報を提供することで、県民の生涯学習の機会と現代的課題の解決に寄与する。		
会 場	さわやかちば県民プラザ 中研修室2		
対 象	どなたでも		
申込方法	来所、電話または Web 申込		
募集定員	60名	募集期間	令和6年4月18日から令和6年6月8日
参加者数	87名 対面34名、オンライン28名、 サテライト配信25名 ※サテライト会場は実施内容に記載	参加費用	無料
講師 等	気象大学校 講師 梶原 靖司 氏		
実施内容	内容:「ゼロからわかる天気と気象 ～頻発する気象災害に立ち向かう気象庁のチャレンジングな取組～」 日程:午後1時55分～午後2時 オリエンテーション 午後2時～午後3時30分 講演 午後3時30分～午後4時 質疑応答、アンケート記入、閉演    会場の様子 梶原講師 質疑応答の様子 ※サテライト会場(2施設)・・・佐倉市立弥富公民館、旭市民会館		
参加者 アンケート	【満足度94%】 ○最新の気象に関する取り組みを確認させて頂いた。 ○防災施策の大転換により、自分の身は自分で守る「マイタイムライン」の必要性がよくわかった。 ○気象を学ぶ第一歩としたい。 ○災害から学ぶことが多かった。自分の命は自分で守る大切さを知った。		

	○危機的状況がせまっているので、一人一人が CO2 削減に取り組むことが大切である。 ○用語が難しく勉強不足だった。なぜ台風が起こるのかといった普段の生活の中の疑問を知りたかった。 ○専門家からタイムリーな話が聞けて有益であった。今後の気象庁のチャレンジングな取組を期待している。 ○災害・環境問題への危機意識が改めて感じられた。
担当者の 所感	【成果】 ・本事業の趣旨である「県民の生涯学習の機会と現代的課題の解決に寄与する。」については、線状降水帯が起こる理由や対策、気象庁が取り組んでいること等話題となっている事象を講師の先生よりわかりやすく講演いただいたことにより大きく貢献できたと考える。 ・受講方法については、今年度より新たにオンラインでの受講申込を行った。遠方からの申込みもあり、県民の生涯学習の機会の提供に寄与できた。 【課題・今後の方向性】 ・オンラインでの受講については、多くの課題が残った。講師以外の声が届きづらい(司会者、質問者の声が聞こえていない)、ネット環境の問題により、受信側に映像が発信できない時間帯があった。パソコンの予備機とオンライン用マイクを増加していく。 ・人員配置については、中研修室なので少ない人数で対応できる。しかし、パソコンの予備機を必要数確保することを考えると、最低でも5台のパソコンの準備が必要となる(講師用、講師予備用、オンライン用、オンライン予備機2台)。